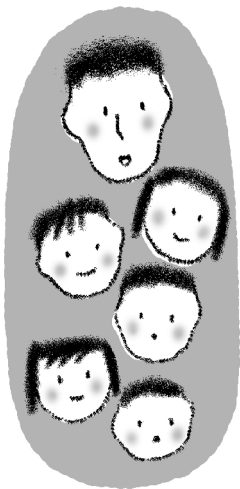


Fさんは、菅小・菅中卒業で、嵐山町の企業に勤めている三才。8年間ほど、「放課後子ども教室」などのこどもと関わっています。



？「放課後子ども教室」にかかわるようになったのは？

・高校のときに町の演劇に出たのがきっかけ。それまでは小中学生と関わる機会がなかったけれど、一緒に活動していく中で共に成長する喜びを知り、リーダー活動の中から「人を活かすことで自分が生きる」ということを学んだ。

？「放課後子ども教室」を「スイミー」と名づけたのは？

・小学校2年生の国語の教科書に出ていたお話「スイミー」からとった。兄弟を失った黒い小さな魚（スイミー）が海を旅する中でいろいろな生き物と遭遇する。そこで兄弟に似たたくさんのおいしそうな赤い魚に出逢う。スイミーが目になることを決意し、多くの小さい赤い魚が仲良く協力して大きな赤い魚のからだになって大きな魚を追い払うという話。様々な経験の中で自分の個性を見つけ、その個性を活かす場を自分達で切り開いていこうという思いがあります。

？「スイミー」や「Link」の活動は？

・誰もがいつでもきていいよという集まり。宿題をしたり、交流をする場になっている。イベントは子ども達の意見を尊重し企画していく。中高生以上のリーダー組織「Link」が協力している。イベントの時だけでなく、普段の生活の中でも一人一人と向き合い、相手の個性を認めて活かすことができればより良い街づくりにもつながる。

・そしてリーダーは前に立ちながらもどれだけ裏方に回れるか。自分が引き立て役にになり、周りを輝かせることができるかが重要。

・今は、嵐山祭りに向けて合奏の練習。11月30日のリサイクルフェアに向けてリサイクル品の回収をしている

？子どもにとって「スイミー」の魅力は何だとおもいますか？

・子どもたちに考えさせて意見を尊重している。普段の生活で「認めてもらえなかったところ」を認めている。やんちゃする元気を受け入れて子どもの個性を引き出している。

？子どもとリーダーの関係は？

・リーダーには子どもたちの接し方とか後輩に伝えてほしいけれど、リーダーの間でも学年の差を超えて交流する方法を知らない。小さいときから近所の子どもと接することをしていないからだと思う。高校生がリーダーシップをとって、中学生や、1学年年下の子とのつきあいにくさを克服していく事を積み上げて続けたい。

？今の中学生は変わった？

・8年前高校時代に会った中学生は、大人や相手をさぐらない・素直な感じで、今は内面にいろんなことを気にしながら発言しているのかなと思う。こう言えばこの人は喜ぶとか、こう言えば支障はないだろうなどと考えて口に出している気がする。逆にそれが出来ない子は荒い口調や態度で表す。本音を安心して語れる場、心を許せる相手が見つからないのかもしれない。



若い人はどう考えるか、小中高生とかかかわっているFさん(23才)の話から、こども政策に必要なことが見えてきます。

？先生って批判されることが多いけれど、どんな感じかなあ？

・生徒を惹きつける授業ができるのが先生の基本だとおもっている。ここ何年か中学生からは「カッコいい先生とか尊敬できる先生とかが、いない」という答えが返ってくる。僕らの時はいた。本当にいないのか、口に出さないだけなのかわからない。

・僕は学校楽しかったけれど、仲間にもいじめにあっていたのでつまらなかつたという人がいる。そこまで悩んでいたことに当時は気づけなかつた。もし先生がいじめに気づいていたのなら何か対応してほしかった。先生や周りが考えているよりも本人にとっては深刻な問題なのかもしれない。

？「スイミー」に関わっていて問題は？

・小学生は来るけれど中学生は部活で来られない。嵐山町の小学校三校でも5時間で終わる日が1週間の同じ曜日ではない。中学の部活のない日と小学校の5時間授業の日が一緒だと、「スイミー」は中学になっても続けられる。高校生リーダーも2年が3年になって、3年が受験で抜けていくと、新しいリーダーに子ども達と関わっていくうえでのノウハウを継承していけない。

？子どもと大人との関係はどう？

・親は、先回りして「見守る力」が弱くなっていると思う。子どもと親と一緒に参加する企画があると、親は先取りしてすぐに手を出してしまう。大人は自分が最善と判断したものを子どもに教えてしまう。確かに一番良い方法を子どもは知ることが出来る。しかし、一番大事なのはそこに行きつくまでの過程だと思う。もしかしたら失敗や怪我をしてしまうかもしれない。失敗した時のフォロー、怪我をした時の対処が今後の子どもの成長を大きく左右すると思う。大人は解決策を教えるよりも、何が起きてても動じない選択肢を多数用意しておくことが先決だと思う。

？若い人のための事業は企画しても集まらないというけれど？

・集まらないということではなくって行政がどこまで力を貸してくれるかだと思う。小学生の時代、集まって始まったも、それを積み上げて継続させるには子どもが来れる時間と場所がないとできない。

・「スイミー」や「Link」は、公民館という人の集まりやすい場所と活動を認めてくれる人がいて信頼してくれる人がいた。

？若い人は嵐山町ではあまり活動しないよね？

・町への愛着とか盛り上げる気持ちがないことですよ。町には大人が企画したこども対象のイベントはあるけれど、子どもが自分で企画したものはありません。子どもがつくった企画を責任もって子どもがするのと大人の立てた企画に参加するのでは意味が違う。子どものプランニングからのイベントができるかできないかが大切だと思う。子どもが責任をもって企画できるものを続けていくと町に愛着がでてくると思う。

？どんな大人になりたいですか？

「こども心」を忘れない大人。

